

山形大学広報誌

Yamagata University Quarterly Magazine

Midori  gi

みどり樹

特集/座談会

山大生の
素朴なギモン&
本音でトーク

研究室訪問/農学部

米どころ庄内から
日本農業の未来を展望する



Summer
2014
vol. 60

特集

学長、教えて！ 山大生の 素朴なギモン & 学長、お願い！ 本音でトーク

山形大学学長

小山清人 × 学生有志

本年4月に就任した小山清人新学長は、基本方針として①学生目線による大学創り②調和のとれた大学創り③存在感のある大学創りの3点を掲げている。筆頭に掲げた「学生目線」に立つにあたって、まず、学生目線を知る必要があると考えた小山学長は、1年から4年までの学生有志4名を学長室に招き入れた。学長への質問や大学への要望など、何でも気軽に話そうとフリートークを持ちかけたのだ。初めは緊張気味だった学生たちも学長の気さくな声掛けで次第にリラックス。和やかな雰囲気の中、軽快に本音トークが展開された。

小山学長に学生の疑問をぶつけてみました！

Q1 学長が考えるいい授業とは？先生方にはどんな方針を伝えているんですか？

茂藤 私たち学生からすると、「単位が取りやすく楽しくて、多少休んでも大丈夫」そんな授業がいい授業なんです。学長は先生方にこんな授業をするようにとか、方針や要望は出されているんですか。

小山 山大の授業は4,000コマぐらいありますから、その一つひとつに注文をつけることは難しいので、先生方には学生と1対1で勝負できるような授業、学生が真剣に向かってくるような講義をしてほしいとお願いしています。だから、学生のみなさんには素晴らしい授業だと思ったら拍手をしてもらってもいいし、逆につまらない授業にはブーイングしてもらってもいいと思っていますよ。

高橋 え？ブーイングしてもいいんですか。

小山 いいですよ。サッカーでも情けないプレーにはブーイングするでしょ。でも、いい



プレー、いい授業には喝采ですよ。

茂藤 そうですよ。でも、教室での拍手やブーイングはかなり勇気がいらしますね。話は変わりますが、私は一度社会人を経験していることもあって、今、勉強ができてるのが楽しくてしょうがないんです。中でも、最上地区でのフィールドワークをはじめとする体験型の授業が多いのはいいですが、時間や日数が少なすぎて、私としてはもう一步踏み込みたいという思いがあるんですが、それは難しいですか。

小山 人的資源や日程などを考えると難しいね。でも、授業を一つのトリガー(きっかけ)と位置づけてみてはどうだろう。大学での勉強は、高校までのそれとはまったく別もので、授業は教わるものではなく自分で勉強するためのきっかけづくり。ほかの授業にも言えることだけどね。だから、もがみのフィールドワークにはリピーターが多いらしいですよ。

茂藤 きっかけ、ですか。わかりました。

Q2 学長って、先生方に対してどんな権限がありますか？

高橋 とても素朴な疑問なんですが、学長

の権限はどのくらいありますか。私達に近いところで言うと、成績評価に学長の意見を反映させるようなことができるのですか。

小山 それは絶望的にムリだね。基本、授業というものは、一步教室に入れば、その授業を担当する先生の権限なんです。先生と学生だけの世界ですから、先生に意見ができるのは学生だけなんです。だれも教室の外からプレッシャーを掛けることはできないんです。

高橋 そうなんですか。まじめに勉強するしかないわけですね。

小山 勉強と言っても、大学で身に付けなくてはならないのは知識ではなく知恵だ。知識を教えてもらう高校までの勉強とは全然違う。さっきも言ったように、授業はきっかけ、その先は「自分で探す、自分で考える」のが大学の勉強です。いつまでも教えてもらってばかりでは人生つまらないですよ。

高橋 授業では本当にたくさんのきっかけをつくってもらっていますよね、確かに。感謝してもしきれないくらい。その先は自分で……、それがなかなか見つからなくて。辛い作業になりそうですね。

小山 その過程を楽しまなくちゃ。暗闇でその何かを見つけた時の快感のために。

高橋 はい、わかりました。まずは、たまった課題をがんばって片付けます。

Q3 エリアキャンパスもがみについて、どんな狙い、どんな位置づけで捉えていますか？

菊地 小山学長とお話できると言うことで少し勉強してきたんですが、「エリアキャンパスもがみ」のことがよくわからなくて。その狙いや位置づけを教えてください。

小山 エリアキャンパスもがみは、5つめのキャンパス。庄内、最上、村山、置賜、山形県4つのエリアで連携を図る上で、最上地区にだけキャンパスがないことがネックになっていた。本当は実際に新しい学部や校舎を持てればいいんだが、今の大学にはそれだけのパワーはない。そこで、バーチャルで最上地区全体をキャンパスに見立てて授業を行っているわけです。私が示した方針でいうところの「存在感のある大学創り」の一環というか、最上地区のみなさんにも山形大学は自分たちの大学だと思ってもらいたい、誇りに思ってもらいたいじゃないですか。

菊地 祭とか自然とか、地元の人とのかかわりの中でいろいろなことを勉強できるのは面白いですね。まさに、「地域に根ざして」ですね。

小山 そう、そして、地域にキミたち若者の視点を取り入れるということにも意義がある。



例えば、新しいみやげ物を開発しようというときにも若者の視点が入った方がいい。昔から「地域をよくするのは若者、よそ者」という言葉があるくらいだから。地元の人たちがクローズして、よそ者を受け入れなかったらその地域に変化は起きないよね。

菊地 学生が地域にかかわることで勢いが生まれるし、学生も成長できるということですね。

Q4 小小学長の学生時代はどんな学生でしたか？

徐 私は今4年生で、大学院に進みたいと思っています。グローバル化が進むと自分から発信していかなければいけないとは思いますが、私はこれまであまり人とかかわってこなかったの、社交性もないし、人と会話するのもとても緊張します。4年生になってからは、もっと積極的にならなくてとは、いろんなイベントにも参加するようにしています。でも、思っている以上になかなかポジティブになれない、話せない自分がいて困ります。小小学長の学生時代はどんな学生だったんですか。

小山 今は、こうしてみなさんにどんどん質問するように言っていますが、学生時代の私は、質問などしなかったし、考えようともしなかったですね。研究者として国際会議に出るようになって、英会話が苦手だからほとんど発言しない。すると「あいつは何を考えているんだ」と不気味がられましたね。これではいけないと、英語の番組や映画をどんど

ん観て、徐々に聞き取れるようにはなっただけで話せない。でも、研究者同士、伝えようとして一生懸命に話すと、相手も一生懸命に理解しようとしてくれる。必要に迫られれば……そんなことの積み重ね、経験ですね。その中でコミュニケーション能力は培われていくものです。徐さんは、私なんかよりずっと凄い、国際交流サークルに入ったり、英語のランチミーティングに参加したりしているわけだから。がんばってください。

徐 少しホッとしました。ありがとうございました。

小小学長が学生たちに大学に要望することを聞いてみました！

A1 キャンパスが狭く、時間帯によっては大混雑するポイントも。

菊地 かなり言いにくいのですが、キャンパスが狭いのもう少し広がったらいいなと思います。

小山 もっと広がったらいいのと思うのは特にどんな時、どの辺りですか。

菊地 時間帯によって人がごった返しているときですね。特に、基盤教育棟前とか、理学部前とか、中庭、昼食時の学食とか。

小山 それが学生目線だよな。私たちの目線では見えてこない。貴重な意見ですよ。だからといって、キャンパスを広くしましよ、



小白川キャンパスのシンボルとも言えるイチョウ並木の下にあふれかえる自転車。学生たちの大事な足だが、美観の点からはちょっと残念。

というわけにはいきませんが、少しでも混雑を緩和する手立てはないかとか、考える材料、ヒントになりますから。ほかにも何か、気になっていることはありますか。

菊地 では、せっかくの機会なのでもう一つ。グラウンド脇を流れている堰が汚いのがちょっと気になっていました。

小山 あ〜、それは私もたまに学内を歩いて回っていて気になってはいました。じゃあ、菊地さんはどうすればいいと思いますか。

菊地 堰の近くに部室のある部員たちに掃除をさせるとか。

小山 やれと言われてやりますかね。それよりも、例えば、菊地さんが仲間何人かで1メートルだけでもきれいに掃除をする→それを写真に撮って大学に提出する→大学がよくやったら菊地さんたちを表彰する→学内で話題になる→自分たちもやってみようというグループが現れる。そんな仕掛けが必要なんじゃないかな。

菊地 私がやってみましょうか。

小山 おお、頼もしい。小さいところから少しずつでいいんです。よろしく頼みますよ。いい流れを作ってください。だれかほかに要望はありませんか。



イチョウの鮮やかなグリーンが目印の山大学シャトルバス。山形駅や清明寮からキャンパスへのアクセスに便利。



小白川キャンパス内を流れる山形五堰の一つ「笹堰」。少し手を加えれば渾水を呼ぶ水辺となりそうだが。



A2 冬場だけでも 飯田～小白川間の シャトルバスを走らせて。

茂藤 それでは、私からも一つ。以前、飯田キャンパス～小白川キャンパス間をシャトルバスが走るような計画があると聞いたんですが、その話はもうなくなってしまったのでしょうか。私は飯田キャンパスへのアクセスを重視してアパートを借りたものですから、小白川キャンパスに通うのは結構大変なんです。バスも乗り換えなしでは来れないので。今の季節は自転車が使えらるからまだいいんですが、せめて雪の季節はシャトルバスがあると助かります。

小山 シャトルバスの話はなくなったわけではありません。予算の関係で実現に至っていないだけです。だから、学生目線でこれが必要なんだと声を上げ続けてください。鶴岡や米沢からもシャトルバスを出してほしいという要望はあって、学生がリードしてバスに乗る人数を集めて、集まったところでバスを借りて運行する、というトライもやっていますよ。

茂藤 それは、どんなプロセスでやればい

のですか。具体的には誰にどういうルートでお願いすればいいんですか。

小山 どういうプロセスでとか、どうすれば効果的とか、あまり考えないほうがいい。それは必要度合いとは関係ないから。人がより必要としているところに予算が回った方がいいわけだから。声が大きいくところとか、要領のいいところに、というのは本意じゃないですから。

A3 小山庄長、 たまには食堂に 食事に来てください。

高橋 さっき友達に「これから学長にお会いするんだ」と言ったら、新しい学長がどんな人なのか全然知らないって言うんです。小山庄長はせっかくこんなに気さくな方なんですから、もっともっと学生との接点を持つてほしいと思ったんです。

小山 いいですね。喜んでいきますよ。私もたまに学長室を抜け出して学内を散歩したりしているんですが、誰も私が学長とは気づいていないようです。

高橋 気づかないと思います。学長と言えば、学長せんべいのイラストのイメージしかなかったりしますから。

小山 じゃ、今度学内で会ったらあいさつぐらいしてくださいよ。

高橋 はい、もちろんです。

小山 今日は学生のみなさんといろんな話ができ楽しかった。少しは学生目線に近づけたかな。ありがとう。

学生一同 ありがとうございます。



山形大学ですっかりお馴染みの「がくちょうせんべい」小山庄長版。新学長の知名度アップにも一役。

学生有志たち



茂藤優司

もとうゆうじ●医学部医学科1年、石川県出身。理工学系の大学院を修了し、一度は就職するも、東日本大震災後のボランティア活動をきっかけに医者を目指す。社会人経験があればこそ、今は学べることの喜びを実感している。



高橋涼花

たかはしりょうか●人文学部人間文化学科2年、福島県出身。無類のインターネット好き、合気道部所属。オープンキャンパスで訪れた山形大学に好印象を持ち、念願がなって入学。ただ、冬の雪の多さだけは大きな誤算だった。



菊地冠汰

きくちかんた●理学部物理学科3年、山形県出身。地学研究会とテニスサークルに所属。出身高校が大学のすぐ近く、近すぎでノーマークだったが、物理学科が面白そうと知り進学を希望。博物館や図書館の充実ぶりにも満足している。



徐嘉楽

じょからく●工学部機械システム工学科4年、中国上海出身。5歳の時に宮城県仙台市に移り住む。国際交流サークルに所属し、コミュニケーション能力の向上に努めている。自然豊かでイベントも多い山形の四季を楽しく思っている。

学生へのメッセージ



山大生として自分に誇りと自信を持って頑張ってもらいたい。劣等感や不満ではなく前向きに。自分が欠点だと思っていることもいい面に変えられる。物事には表側と裏側があるから、欠点や苦手なことも自信につなげてほしい。

小山庄長

こやまきよひと●学長/和歌山県出身。山形大大学院修士課程修了、1974年に工学部助手となり、92年から教授。2004～07年工学部長を務め、07年副学長就任、本年4月より現職。学生、教員の立場で山形大学一筋、早46年。

YAMADAI TOPICS

人文学部

Faculty of Literature and Social Sciences

小学生の 保護者を対象に 安心・安全意識を調査



人文学部人間文化学科（地域・人間コース）の教員6名が、「山形市における安心・安全に関する学際的研究」プロジェクトの一環として、山形一小、山形五小、山形八小の保護者754名を対象に、子育ての不安や防災意識、山生への印象などについて、2013年12月にアンケート調査を行い、その結果を報告書にまとめました。

調査の結果、子育てや災害の際に頼れる人の少なさと共助のネットワークへの高いニーズ、避難地図や避難場所といった防災情報の浸透具合や避難経路上の危険箇所、大学生の自転車運転や夜間の騒音に対する不安などが浮き彫りとなり、安心・安全な地域づくりへの課題が明らかになりました。報告書には各課題への提言も盛り込み、大学や小学校とも連携しながら、課題解決に向けた取り組みを進めていきたいと考えています。

この報告書や調査票は山形大学のウェブサイトからご覧いただけます。また、報告書は調査対象となったすべての保護者の方々に配布しました。

地域教育文化学部

Faculty of Education, Art and Science

平成25年度 地域教育文化学部 留学体験報告会を実施

平成25年度「留学体験報告会」を開催しました。須賀一好学部長の挨拶につき、8名の学生が体験報告を行いました。今回の報告会は、日本から海外に行った学生と海外から日本に来た学生が同様の「留学体験」をしているという視点から企画したものです。

【留学体験報告会】

- (1) 校友会事業による超短期留学（2～3週間）
（アメリカ2名、カナダ2名）
- (2) 大学間協定校への短期派遣留学（1年程度）
（南米ボリビア1名、欧州ラトビア1名）
- (3) 外国人留学生の日本短期留学（1年程度）
（中国人留学生1名、韓国人留学生1名）

それぞれの学生が、留学中に心を動かされたことや苦労したこと等の「気づき」について発表しました。その中でも自主的に延長した期間も含め1年半ボリビアの協定校に留学した学生の話が特に印象的でした。流暢なスペイン語を織り交ぜて、会場の1年生や2年生に熱く語っていました。

平成26年度は、大学間交流協定校へ4名（アメリカ2名、台湾1名、エストニア1名）を派遣します。



理学部

Faculty of Science

「やまがた天文台」が 小惑星の名前になりました！



小惑星は、探査機はやぶさが到達した「いとかわ」のように名前を持っているものがあります。

南陽天文愛好会長の大国富丸さんが発見した小惑星の100番目の命名として、大国さんのご厚意により「やまがた天文台」の名前が冠されることになりました。

「やまがた天文台」は、理学部の屋上であり、理学部とNPO法人小さな天文学者の会が共同で運営する公開天文台です。毎週土曜日、だれでもふと立ち寄って、宇宙を見ることが出来ます。

これを機にスタッフ一同、市民の天文台としてさらに楽しい場所にしたいと考えています。雨でもオープンしており、星のソムリエさんが星を語ります。どうぞおいでください。

■やまがた天文台ホームページ

<http://astr-www.kj.yamagata-u.ac.jp/yao/>

■一般公開：毎週土曜日

4月～9月 19:00～21:15

10月～3月 18:00～20:15

各学部からさまざまな話題や近況が届きました。
山形大学の多方面での活動、活躍にご注目ください。

医学部

Faculty of Medicine

医学部在宅医療・ 在宅看護教育センター 講演会を開催

山形大学医学部在宅医療・在宅看護教育センター（センター長：嘉山孝正教授）は、医療法人社団パリアン理事長の川越厚先生を講師にお迎えし、「在宅ホスピスケアと医の原点」をテーマとして、3月23日（日）に講演会を開催しました。

同センターは、これから在宅医療・在宅看護のニーズが高まることを見据え、在宅医療・在宅看護技術の均てん化と質の向上を目的として、山形大学、県医師会、県歯科医師会、県看護協会、県薬剤師会、山形県が協力して2013年4月に設立されました。この度の講演会は、センターの設立1周年を記念して開催されたものです。

当日は、学内外から約200名もの参加がありました。講演会では、川越先生から、末期がん患者や高齢者の「できるだけ家で普通に過ごしたい」という思いに対して専門家の立場からお話いただきました。参加者は、患者さんの痛みや苦しみを緩和するために何ができるのかを考えるきっかけとなり、大変有意義な講演会となりました。



工学部

Faculty of Engineering

ぐんじん 宮瑾特任助教が 第7回資生堂女性研究者 サイエンスグラントを 受賞



山形大学大学院理工学研究科の宮瑾特任助教が、資生堂が主催する第7回女性研究者サイエンスグラントを受賞し、6月13日（金）に横浜市で行われた授賞式に出席しました。

この賞は、女性研究者の研究活動を支援し、指導的女性研究者の育成と奨励のために設けられた資生堂の研究助成制度で、自然科学分野の幅広い研究テーマを対象に、毎年10名の女性研究者に贈られています。

今回の受賞研究テーマは「眼内レンズへ応用可能なスマートゲル材料の開発（透明度を制御できる形状記憶ゲルの開発と眼内レンズへの応用）」。

宮瑾特任助教らのグループが世界で初めて成功した、透明な形状記憶ゲル開発の研究成果が認められたもので、今後は、3Dゲルプリンターを活用し、白内障の手術などで使用する眼内レンズの開発に取り組みます。宮瑾特任助教は「ゲルの応用範囲は広く、今後は眼内レンズ以外に、食べ物や、人間の形をしたゲルロボットなどの開発を思い描いており、実用化に向けて努力したい」と語っています。

農学部

Faculty of Agriculture

平成26年度鶴岡南高校 スーパーサイエンス ハイスクール「鶴南ゼミ・ 生物分野講座」が開始

4月17日（木）、平成26年度鶴岡南高校スーパーサイエンスハイスクール（SSH）「鶴南ゼミ・生物分野講座」のガイダンス・基礎実験1が農学部において行われました。

この「鶴南ゼミ・生物分野講座」は、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に採択された鶴岡南高校からの依頼に基づき、平成24年度から行っているものです。

今年度も、25名の生徒が西澤学部長ほか5名の担当教員から、農学部で行われている研究の指導を受けながら基礎実験を通して、実験手法の基礎を学びます。

その後は5月22日（木）から12月18日（木）まで、自分たちの研究テーマに沿って探究活動に入ります。

英語での論文作成や海外での研修発表、1年間の研究成果を論文にまとめ全体発表を行うなど、来年2月までの長期間となりますが、実り多い講座となるよう期待しております。

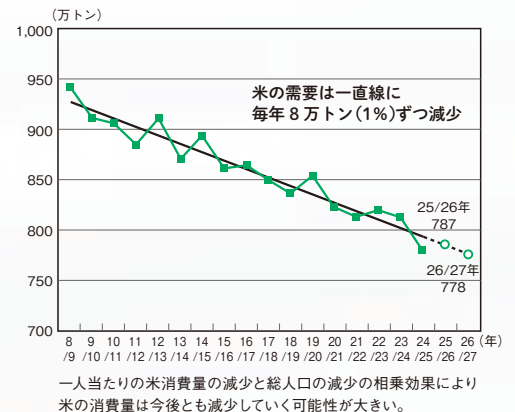


米余り、なのに国産食料不足。 米どころ庄内から 日本農業の未来を展望する。

小沢 互 農学部食料生命環境学科 教授

TPP交渉参加や減反政策の廃止など、農業を取り巻く環境が大きな転換期を迎えている今、経営、地域計画の角度から農業研究に取り組んでいる小沢互教授のもとにはさまざまな依頼や相談が舞い込む。そのため、教授、学科長職に加えて、山形県米政策推進会議会長などの役職も担っている。生産者も消費者もハッピーになれる農業のあり方とは、小沢先生の研究・提言から目が離せない。

米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針
平成25年11月農林水産省



鶴岡市内、田植えを終えたばかりの田んぼを視察する小沢先生。聞き取り調査なども行い、リアルな現状を研究に反映させている。

農村地域の活力をどう高めるか 現状分析から調査、提案まで

農学部には、農産物の生産性を高めるための飼料や土壌、害虫等の研究をはじめ、畜産、森林資源、生産業機械、農業経済など実に多様な研究分野が混在している。小沢先生の専門は農業経済学と地域計画学。農業を活性化し、地域に活力を生み出すための今後の農業のあり方等を経済学の視点から研究している。日本の農業に関する統計資料は整備されているので、その分析を行った上で、農業地域にある大学という地の利を生かし、地域の農村や農家、関係機関を対象にアンケート・聞き取り調査等も行っている。

1軒の農家で何種類もの作物を作っていたり、数軒で1種類の作物を作っていたり、さまざまなケースがある農業経営においては、需要と供給のバランス、価格の安定などの観点から生産目標や生産調整が必要になってくる。つまり、それが地域計画学につながってくるのだ。

農政に一喜一憂することなく 自ら判断する農業を推進

今、稲作農家のみなさんのもっぱらの関心事は2018年度から減反政策が廃止されるということではないだろうか。突然の政策転換は困るといった声も多く聞かれるが、「減反政策の役目はずっと以前に終わっていた。廃止についても10年前に決定していた」と小沢先生。民主党への政権交代で廃止の時期が先に延びただけのこと。県米政策推進会議の会長でもある小沢先生は、その点を農家の人々に伝え、動揺することなく冷静に対応することを求めている。

米の消費は減り続け、過剰米となっているにもかかわらず日本の食料自給率はおよそ40%まで落ち込んでいる。これを50~60%に引き上げることを念頭に、米にこだわらない農業経営に取り組めば可能性はグンと広がる。減反政策の廃止を稲作からの転換期と捉え、耕地をどう生かすかを自分たちでコントロールできるチャンス。単に転作を勧めて補助金を出すなどの方法では、良い結果は望めない。企業を誘致する際に地元の人々に職業訓練を行うように、農家にも職業訓練を行うべきと提言してきた。



小沢 互

おざわ 互 ●農学部食料生命環境学科教授／岩手県出身。帯広畜産大学畜産学研究所修了、東北大学にて博士(農学)取得。専門分野は農業経済学、地域計画学。山形県米政策推進会議会長ほか、学内外での役職を兼任。

6次産業ビジネス・スクールで 農業の未来を開く人材を育成

農家の職業訓練的な役割を担い、産学官が運営する「やまがた6次産業ビジネス・スクール」がスタートしたのは2009年。6次産業とは、農業(1次産業)をベースに、加工(2次産業)、流通販売・観光交流(3次産業)を組み合わせて新たな食農ビジネスを創出する産業で、小沢先生はスクールのカリキュラム開発リーダーとして、山形県の農と食を担う人材の育成に尽力している。農家を対象にスタートさせたスクールだが、意外にも受講者の半数以上は食農への新規参入を目指す企業や行政サイドの担当者、温泉旅館の女将など、バラエティに富んでいる。その中で異業種交流ができ、自然にビジネス・マッチングも発生している。また、小沢先生は農学部で開講している、在来作物をテーマにした実践講座「おしゃべりな畑」でも講義やワークショップを担当している。

農業(食)に携わっている強み、 多岐にわたる学生たちの就職先

学内外を飛び回る中で積み上げられたネットワークを、小沢先生は学生の教育に巧みに活用している。「地域活性化論」の授業では講義に加えて、問題点を抱えた地域を鶴岡市から紹介してもらい、その聞き取り調査や活性化に向けた企画・提案などを行わせてもらっている。さらに、小沢先生自身の用件で農家を訪れるような場面でも、希望者を募って学生を同行させるようにしている。いろいろな人とコミュニケーションを重ねることで積極性も生まれ、自分で考える力も身についていく。小沢研究室の学生たちの就職先は農業、行政、流通、銀行など、多方面にわたる。農業、つまり食に携わった強みで、万人の関心事・食べ物の話で盛り上がるのか面接での評価が高いという。農業地域にある農学部という特長が学生教育にも存分に生かされている。



「飼料用米の栽培・利用～山形県庄内の取り組み～」2009年8月に刊行された小沢先生の著作本。



膨大な本や資料が並ぶ研究室。蔵書のジャンルは幅広く、学生たちも自由に閲覧できるようになっている。



鶴岡市の代表的な在来作物の一つ、温海カブ。その他、だだちゃ豆や民田ナスなどもファンの多い在来作物だ。



在来作物実践講座「おしゃべりな畑」の様子。受講生は講義やワークショップを通して在来作物への理解を深めた。



望月正彦

もちづきまさひこ●1952年山梨県生まれ、岩手県花巻市育ち。1974年人文学部で経済・法律を学び、卒業後は岩手県職員に。助役、局長等を経て2010年から現職。趣味は自然散策と釣り。

懸命の成果

東日本大震災で甚大な被害を受けながらもわずか5日後には一部運行を再開し、3年後の今年4月6日には全線復旧を果たした「三鉄」こと「三陸鉄道」。その見事な復活劇を指揮した社長として一躍注目を集めた望月正彦氏は、誇らしいことに工学部卒業生だ。山梨県で生まれ、岩手県花巻市で育った望月さんは、経済・法律系のコースがある本学に進学し、2年次からは岩手県職員を目指して「公法ゼミ」で地方自治制度を一所懸命に勉強したという。その一方で、バレー部での部活やサウナの受付、喫茶店のウェ이터などのアルバイトにも奔走。ゼミやサークルの仲間とのコンパや馬見ヶ崎川での芋煮会など、楽しい思い出も数多い。大学での学びと多彩な経験が功を奏し、希望通り岩手県職員に採用され、岩手県企業立地推進課長、久慈市助役等を歴任の後、2010年6月に三陸鉄道株式会社の代表取締役社長に就任した。そのわずか9カ月後にあの震災に見舞われたことになる。

「もともと赤字続きだった三鉄は本当に必要なかとの思いもよぎったが、“今後も三陸鉄道が必要だ”という地域の人々や鉄道ファンの声、全国からの支援や応援に背中を押され、スタッフと共にがんばれた」と望月さん。復旧後の活性化には観光客呼び込まなければと、自らユニークな企画を実行するとともに、社員にも失敗を恐れることなくのびのびと仕事に取り組める環境を与えた。マスコミも上手に活用し、注目度を高める仕掛け作りにも手腕を発揮。また、社員の間でも部下の声にもちゃんと耳を傾けてくれる、趣味の話も楽しい社長として信望も厚い。

「大学では様々な経験をし、友情を育んで欲しい。そして、自分の目標を定め、それを実現させるプロセスをしっかり実行することが大切。努力すれば報われるのが人生です」と語る望月社長。かずかずの試練を乗り越えて「努力は報われる」を実証してきた望月先輩の後に続けたい。



山大聖火リレー



「三鉄」の復旧・復興をパワフルに牽引、これからは正念場と、さらなる挑戦は続く。

望月正彦 三陸鉄道株式会社 代表取締役社長



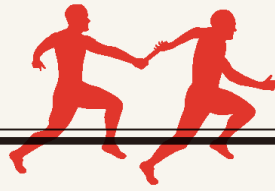
震災のわずか2日後、3月13日に被災状況を把握するために現地を視察した際の写真。現場は田老駅の久慈方面。線路上に流されてきた屋根の上のっているのが望月社長。



今年4月6日に宮古駅前で執り行われた北リアス線全線運行再開記念式典でのテープカットの様子。「三鉄で登校してほしい」と全線復旧の日程は沿線の学校の始業式に合わせた。

山形大学で学んだこと、過ごした日々、
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。
現役山大学生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。

Literature and Social Sciences • Education, Art and Science •
Science • Medicine • Engineering • Agriculture



鍛錬の成果

デュアスロンとは、トライアスロン競技から水泳を除いたラン(ランニング)とバイク(自転車)の2種目でタイムや順位を競うスポーツ。水泳が得意ではない人でも参加でき、水泳を設定しにくい会場や冬季でも開催できる競技だ。本学トライアスロン部の部長を務める照井雄大さんは、昨年10月に開催された「カーフマンジャパンデュアスロングランプリシーズン11第1戦日本海酒田湊ステージ・第20回庄内デュアスロンin酒田」のエイジクラスで見事優勝。その活躍が認められ、平成25年度の学生表彰を受賞した。

将来は建築士を目指して生活環境科学コースを専攻している照井さんは、高校時代は陸上部所属という生粋のスポーツマン。長距離が得意だったこともありトライアスロン部の勧誘を受けると、みるみるその魅力に惹かれていった。練習がきついほど完走したときの達成感は格別。だが、ランとバイクには自信があった照井さんも水泳はほとんど未経験だった。トライアスロン部にはコーチがいなため、学生同士でそれぞれの得意種目を指導し合うしかない。照井さんは走りの指導を、後輩からは水泳の手ほどきを、そんなギブ&テイクが、チーム間の連携、絆を深める結果にもつながっている。

今後の目標は、トライアスロンでインカレに出場し完走すること。そのためにはまず、7月の予選を通過しなければならない。インカレ出場を果たしながらも、バイクのトラブルで完走できなかった昨年のリベンジマッチでもある。デュアスロンでは昨年優勝したエイジクラスよりレベルの高い、エリートクラスでの表彰台を狙う。さらに、チームとしてはトライアスロン東北学生選手権での2位以上入賞、およびインカレで3人以上完走して団体順位を獲得することを目指す。今春、女子マネージャーの入部で活気と華やかさを増したトライアスロン部。学内での知名度とイメージアップも密かに目標としている。



トライアスロン部の部長を務める照井さん(左から2番目)と練習に集まった後輩たち。コーチがいなため、部員同士、得意な種目を教え合ってレベルアップを図っている。



さすが陸上部出身で長距離が得意という照井部長。ランの練習中はつねに後輩たちをリード。走りを中心に日々鍛錬を積み、インカレ出場、表彰台など目標の達成を目指す。

デュアスロン大会で優勝し、学生表彰を受賞。 完走の達成感を求め、鍛錬を積む日々。

照井雄大 地域教育文化学部3年



2014年
4/1(火)
より



山形大学 小白川キャンパス 保育所「のびのび」 スタート!!

小白川キャンパス内に念願の保育所（事業所内保育所）がようやく完成し、4月1日（火）にスタートしました。保育所は、非常勤講師宿泊施設「瑞樹荘」の一部改修によるもので、安心・安全な環境の中で、健康な心身の成長を育むことを第一に考えて設計されました。床面積195㎡、広い屋外園庭（370㎡）をもち、冷暖房（エアコン・床暖房）、安全設備（入口オートロック・電気錠、カメラ付きインターホン、防犯空間センサー、非常通報ボタン、警備契約）を整え、家具等にも十分な安全配慮がなされています。

利用できるのは、山形大学に所属する教職員・学生と地域の方々です。現在、入所児

6名ですが、本年度中に10名になる予定です。一時預かりの利用は教職員・学生に限られますが、利用希望者の登録が続いています。

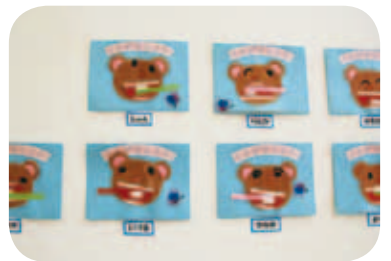
運営委託先は、平成21年度から実施している一時預かり制度の「山形大学託児サポーター制度」で連携のあったNPO法人やまがた育児サークルランド（代表 野口比呂美）で、現在、主任保育士を含む保育士3名と保育補助者2名の5名体制で保育に当たっています。

緑豊かなキャンパスの中で、愛称どおり「のびのび」と生活しながら、幼児の豊かな人間性を育み、保護者、地域から信頼され愛される保育所を目指しています。

サポート充実！山形大学医学部保育所「すくすく」

医学部では、他キャンパスに先駆け、平成19年1月に子育て支援・女性の福利厚生・職場環境の改善の一環として、医師・看護師等の子供を預かり保育する施設「山形大学医学部保育所」（愛称「すくすく」）を開設しています。医師、看護師の勤務に合わせて、土・日曜及び祝日（年末年始を除く）の利用と24時間利用可能であることが大きな特徴です。

開所から7年が経過しましたが、その間、平成24年6月から、利用対象を本学学生の子供にも拡大し、また、平成25年4月からは、入所定員を30名から40名に増員、基本保育の開始時間を7時からに変更するなど、利用者の要望も取り入れながらサポート体制をますます充実させています。



ハワイ大学マノア校を訪問 ～理学部地球環境学科～



ダイヤモンドヘッドの成り立ちについて、ガルシア教授の説明を受ける

4月上旬に、理学部地球環境学科の3年次向け開講科目の「野外巡検」にて、世界有数の火山地帯であるハワイを訪問しました。その際に、ハワイ大学マノア校海洋学・地球科学・テクノロジー学部(SOEST)との交流を行いました。山形大学理学部とSOESTは、2012年3月に学術交流協定を締結し、その後、SOESTからの教授の招聘や本学大学院生の派遣を行い、交流を深めています。今回訪問したのは3年生24名、大学院生2名、教員4名です。

4月1日(火)には、ハワイの火山研究の第一人者であるガルシア教授同行のもと、タフリングの代表であるダイヤモンドヘッ

ドを訪れ、地層や火山地形を見ながら、この火山の噴火様式や発達過程について詳しく説明していただきました。

4月2日(水)には、SOESTを訪問し、ガルシア教授から、ハワイの火山の配列や成長過程、それらの要因、火山をもたらしたマグマの発生機構、ハワイの火山に関する最近のトピックスなどハワイの火山活動に関する特別講義を受け、約30分間にわたって活発に質疑応答がなされました。また、教員4名とガルシア教授をはじめとする関連スタッフとで会合を持ち、今後の共同研究の進め方などについても種々打ち合わせを行いました。

現地において火山噴出物を目の前にしな



ダイヤモンドヘッド山頂にて

がら、国際的に活躍している教授からの説明を受け、またハワイ大学において講義を受講したことは、参加者の国際学術交流へ



ハワイ大学にて、ガルシア教授の講義を受ける

の意識向上に非常に効果があったと思われます。ハワイ大学との協定は、現在のところ学部間交流協定であり、学術交流や共同研究を主体にしています。今後も実質的な交流を続け、単位の互換や大学間交流協定に発展させることを検討しています。ご興味をお持ちの方は理学部国際交流担当までご連絡ください。

YAMADAI NEWS

鶴岡市立朝陽第三小学校3年4組と農学部留学生が交流

3月11日(火)、農学部の隣にある鶴岡市立朝陽第三小学校の3年4組・特別支援学級の児童31名とインドネシアから農学部に来ている留学生10名と一緒に授業を行いました。これは、総合的な学習「世界を知ろう 僕にもできる国際協力」の時間を通して、外国への興味が高まっている子供たちと、国際理解・国際協力についてお互いの国の文化や遊びなどを通して理解を



積極的に留学生と話をする子どもたち

ました。福笑い担当の子供達は、「うまくできて良かった。喜んでくれた」とうれしそうに話してくれました。また、コマやけん玉では、うまくできる度に大きな歓声が上がっていました。

体育館に移動してドッジボールや日本の歌の合唱を行った後、お互いに用意していたプレゼントの交換があり、楽しい交流の時間となりました。

深めたいとの朝陽第三小学校からの依頼により実施したものです。

片言の日本語による留学生からの自己紹介に始まり、食べ物や国旗、果物やゲームなどについて、クイズ形式の映像を見ながらインドネシアの紹介がありました。その後、けん玉や折り紙、コマやなわとび、福笑いの五つのグループに分かれて、子供たちと一緒に慣れない手つきで、楽しく遊び



小学生にけん玉を教わる留学生



最後は全員で記念撮影

YAMADAI INFORMATION

山形大学特別プロジェクト

いま、言葉を東北の灯に^{ともしび}

日時／9月7日(日) 13:00～17:00
 場所／山形市中央公民館多目的ホール
 (山形市七日町一丁目2-39 アズ七日町6階)

第1部●第7回高校生朗読コンクール
 東北6県在住の高校生を対象として朗読コンクールを開催します。本選では、予選を通過した10名前後が、岩手県出身の作家宮沢賢治の『注文の多い料理店』(新潮文庫版)に収録されている童話の中から、それぞれ異なる部分を朗読します。

第2部●群読劇「走れメロス」

酒田市出身の演出家佐藤正文氏が演出を担当。俳優の磯部勉さん、大西多摩恵さんの2名をお招きし、山形の一般市民と子どもたち、山形大学の学生およそ35名が一体となって舞台をつくります。

問い合わせ／社会連携課
 TEL 023-628-4016

公開講座等

人文学部

グローバル世界と日本はどうつきあうか

日時／10月2日(木)、9日(木)、16日(木)
 23日(木)、30日(木) 18:30～20:10

場所／人文学部講義室
 参加費／2,000円(高校生、大学生は無料)
 問い合わせ／人文学部事務室
 TEL 023-628-4203

地域教育文化学部

ひらめき☆ときめきサイエンス 算数・数学マジックを楽しもう! in 鶴岡

～「なぜ?」&「なるほど!」の世界～

日時／8月9日(土) 9:30～15:10
 場所／山形大学農学部3号館
 参加費／無料
 対象・人数／山形県内の小学5年生～中学2年生20名
 問い合わせ／地域教育文化学部事務室
 TEL 023-628-4304

世界遺産「和食」の魅力を探ろう

日時／6月28日(土)、7月5日(土)、
 12日(土) 14:00～15:30
 場所／地域教育文化学部1号館講義室及び調理実習室
 参加費／3,000円
 対象・人数／山形市及びその近郊の中学生・高校生・一般20名
 問い合わせ／地域教育文化学部事務室
 TEL 023-628-4304

21世紀の教育の創造

ーほめる・叱るに替わる教育と子育てー③
 日時／8月27日(水)、9月3日(水)、
 10日(水)、17日(水)、24日(水)

18:00～20:00

場所／地域教育文化学部1号館講義室
 参加費／2,000円
 対象・人数／一般50名
 問い合わせ／地域教育文化学部事務室
 TEL 023-628-4304

理学部

小さな科学者・体験学習会 光の不思議

日時／7月27日(日) 13:30～15:30
 場所／山形県産業科学館4階発明工房
 参加費／無料
 対象・人数／小学4年生～中学生とその保護者20組
 問い合わせ／理学部事務室(総務担当)
 TEL 023-628-4505



小さな科学者・体験学習会 親子で体験! バイオロジー・12

日時／8月3日(日) 13:00～15:30
 場所／SCITAセンター 参加費／無料
 対象・人数／小学5・6年生とその保護者10組
 問い合わせ／理学部事務室(総務担当)
 TEL 023-628-4505

見つけて!感じて!
 サイエンスマジック!

Twitter、
 Facebookも
 始めました!!

Re☆5ほ!

山大サイエンスカー



FRI (第1週)
 21:00 - 21:30

月
 日
 ()
 日直
 ステ
 ーシ
 ョン

県内の中学生に、最新の科学をわかりやすい実験を通じてご紹介!
 生徒達に流行していること、学校の取り組みもインタビューします!

〈出演〉栗山恭直(山形大学理学部教授)、大屋香里(エフエム山形アナウンサー)
 〈周波数〉山形 80.4MHz 鶴岡 76.9MHz 新庄 78.2MHz 米沢 77.3MHz



山形大学の行事・催事のご案内です。
地域に根ざした大学としてみなさんのご参加をお待ちしています。

ひらめき☆ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI 見て・聞いて・測って納得!放射線

日時/8月9日(土) 10:00~15:20
場所/SCITAセンター
参加費/無料
対象・人数/小学5・6年生とその保護者20組
問い合わせ/理学部事務室(総務担当)
TEL 023-628-4505

サイエンス・サマースクール in やまがた

日時/8月1日(金)、4日(月)、5日(火)、
6日(水)、8日(金) 10:00~16:00
場所/理学部
参加費/無料
対象/高校生
問い合わせ/理学部事務室(総務担当)
TEL 023-628-4505

農学部

ひらめき☆ときめきサイエンス 生物の多様性を考える

日時/9月20日(土) 9:00~16:00
場所/農学部講義室
参加費/無料
対象・人数/高校生20名
問い合わせ/農学部企画広報室
TEL 0235-28-2911

森の学校

日時/7月12日(土)、10月18日(土)、
2月7日(土) 8:45~16:00
場所/農学部附属やまがたフィールド科学
センター演習林(鶴岡市上名川)
集合場所/山形大学農学部正面玄関前(旧
7号線側)及び鶴岡市朝日庁舎
前からバスにて送迎します

参加費/各回500円(保険料、教材代)
対象・人数/小学3年生以上先着30名
(なるべく3回とも参加できること)
内容/森の花、実、虫、きのこ、鳥、動物、木の
葉、冬芽等の観察・収集、植林、かま
くら設営、そり滑り、スノーモービ
ル乗車等の体験型学習
問い合わせ/農学部事務室(附属施設担当)
TEL 0235-24-2278



収穫体験 大学農場へ行こう!

日時/9月中旬~10月下旬 9:00~12:00
(土日祝日を除く毎日)
※天候等での農作物の出来により、
前後する場合があります
場所/農学部附属やまがたフィールド科学
センター農場(鶴岡市高坂)
参加費/収穫物代金のみ
対象・人数/幼稚園・保育園児等(団体)
※1日2団体まで
問い合わせ/農学部事務室(附属施設担当)
TEL 0235-24-2278

夏期セミナー

日時/8月4日(月) 8:30~12:20
場所/農学部
参加費/無料
対象・人数/生物や化学などに興味を持っ
ている高校生 食料系・生命
系・環境系コース各20名
問い合わせ/農学部事務室(学務担当)
TEL 0235-28-2808

工学部

科学フェスティバル in 米沢 2014

日時/7月26日(土)・27日(日)
10:00~16:00
場所/工学部(米沢キャンパス)
参加費/無料
問い合わせ/科学フェスティバル
実行委員会総務担当
TEL 0238-26-3002

附属学校

親子で築こう豊かな心、広がる心 ウォーターヴィクスを楽しもう 親子わくわくワークショップ

日時/7月19日(土)
場所/附属小学校プール
参加費/1組500円
対象・人数/園児・児童・生徒とその保護者
親子30組
問い合わせ/附属小学校
TEL 023-641-4443

すこやか広場

親子でぺたぺた、まぜまぜしよう

日時/9月4日(木) 14:30~15:45
場所/附属幼稚園 園内及び園庭
参加費/200円(材料費・保険代)
対象・人数/2~3歳児 親子50組
問い合わせ/附属幼稚園
TEL 023-641-4446

親子で楽しむ秋の星座

日時/9月13日(土) 18:30~
場所/附属中学校六稜ホール、グラウンド
参加費/1家族500円
対象・人数/中学生以下の親子150名
問い合わせ/附属中学校
TEL 023-641-4440

印刷だけじゃない、田宮印刷。

TAMIYA
Graphic Communication

田宮印刷株式会社 山形市立谷川3-1410-1 ☎023-686-6111 www.tamiya.co.jp



広告掲載ご希望の方は、総務部広報室までお問い合わせください。TEL. 023-628-4010



シリーズ 24

山形大学附属博物館の収蔵品をはじめ、
大学が誇る貴重な資料を紹介いたします。

山大博物館

この資料を本館では「歴史人形」という名称で分類・登録していますが、「地歴教育人形」「人類風俗人形」「歴代服装標本」などの名称で呼ばれることもあります。本館で所蔵しているものは日本の服飾文化の変遷を示すものですが、人形が制作された明治末年頃は、世界の民族の風貌や衣服の特徴を模した人形も作られていました。

現代のようにテレビもなく、カラー写真やパソコンなどを使った視聴覚教育もできなかった当時、日本古来の土人形の技法で作られた歴史人形は、視覚に訴える教材として貴重な存在であったのでしよう。

人形の台座にはラベルが貼ってあり、そこには「文学博士 関根正直先生 選定」とあります。関根は安政7年江戸に生まれ、学習院教授などを歴任し、平安朝から近世までの国文学、時代考証・注釈を行った学者です。

人形の値段は、当時一体1円50銭（現在の価値で3万円前後）です。決して安いものではありませんでしたが、全国の学校から注文が殺到したといえます。本学・地域教育文化学部の前身である師範学校の時代から受け継がれている資料であることもうなずけるのではないのでしょうか。

本館に所蔵されている歴史人形は20数体あり、男女はもちろんのこと、時代や身分によって、人形のお顔、衣装の文様までがすべて違うという丁寧なつくりになっています。写真の人形の女性は、釵子とよばれる髪飾りをつけ、檜扇を手にし、着物には亀甲文様や四菱などが描かれています。男性の狩衣（狩りや野外での遊びに着用する衣装）にも唐草等の地模様が浮き上がっています。双方とも身分の高い人物であったことが見てとれます。

(附属博物館 高橋加津美)

歴史人形

人形の本体 各高さ20cm

左/室町時代 武家狩衣着用模型

右/中古平安朝時代 婦人正装着用模型

参加者
募集中!!

OPEN CAMPUS 2014

7.26(土) ●医学部

場所/飯田キャンパス(山形市内)

- ・学科説明会(医学科、看護学科)
- ・体験授業(医学科)
- ・施設見学・演習体験(看護学科)

8.3(日) ●農学部

場所/鶴岡キャンパス(鶴岡市内)

- ・学部・各コース説明会
- ・研究紹介・模擬講義
- ・入試・学生生活・保護者相談コーナー 等

8.2(土) ●人文学部・地域教育文化学部・理学部

場所/小白川キャンパス(山形市内)

- ・各学部・各学科(コース)説明会
- ・模擬講義、体験入学
- ・体験学習
- ・なんでも相談(入試、奨学、授業料、学生寮等)コーナー 等

8.8(金) ●工学部

場所/米沢キャンパス(米沢市内)

- ・学部・学科説明会
- ・模擬講義
- ・なんでも相談(入試、奨学、授業料、学生寮等)コーナー 等

●開催内容は諸般の事情により変更になる場合がありますので、随時本学のホームページをご確認ください。

●無料シャトルバスを運行します

各キャンパス最寄り駅(山形駅、米沢駅、鶴岡駅)から無料シャトルバスを運行しますので、ご利用ください。

●参加申込みについて

事前申込みが必要です。7月1日(火)から事前申込みを開始いたします。(原則として予約制ですが、当日の参加も歓迎します。)※事前申込みをいただき、メールマガジン登録をしていただいた方には本学の入試等に関する情報をお送りいたします。

●問い合わせ

エンロールメント・マネジメント部EM企画課
TEL 023-628-4063

平成26年6月30日に平成25年度の役員報酬等及び職員の給与水準を公表しました。詳細は次のホームページアドレスからご覧いただけます。http://www.yamagata-u.ac.jp/jpn/university/pdf/kyuyoh25.pdf

編集後記 Editor's Note

大学は、今、急速に変わりつつあります。山形大学は、地にしっかり足をつけて外の世界を見る、所謂、ローカルズムに基づいたグローバリズムの実践をテーマに変革路線を歩んでいます。今回のみどり樹に掲載されたそれぞれの記事は、このような変革が着実に実を結んでいることを示しています。私の学生時代は、大学で行っている研究や教育の内容が分からず、それらを入学後に少しずつ理解していくことが大学の魅力となっていました。世間から離れた空間に身を置くことで、難しいことを勉強する大学生になれたという実感を持っていた時代です。ですが、もはや大学が世間と一線を画して存在できる時代ではないでしょう。當ての国鉄や電信電話公社がそうだったように、利用者のための変革が組織全体の効率を高めていくことと思われず、ただし、効率性のみが重視され、研究や教育がサービス業化していくことに一抹の不安がよぎることも事実です。小沢先生の研究室訪問にあるように、社会の要望に応える研究を学生と共に一員、学生に考える機会を多く与えるような教育ができる大学に変貌していくことを望みます。(みどり樹編集委員会委員 山田浩久)

—地域に根ざし、世界を目指す—

山形大学ホームページ <http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html>今号の
表紙

小白川キャンパスの中庭で、小山学長を囲んで談笑する学生たち。全員が初対面ということもあり、多少のぎこちなさはお愛敬。後ほどの座談会では緊張もほぐれて、なごやかなムードでいい笑顔を見せていた。

●この「みどり樹」は山形大学ホームページでもご覧になれます。

山形大学 みどり樹

検索

●「みどり樹」に対するご意見・ご質問等をお気軽にお寄せください。

E-mail: koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

●「みどり樹」は、3月、6月、9月、12月に発行する予定です。